

公共施設再編のための市民合意形成手法に関する研究（3）
-さいたま市与野本町小学校を対象とするワークショップの効果-

正会員 ○賈 亦楊*
同 赤沼 大暉*
同 守屋 圭那*
同 志村 秀明**

公共施設 複合化 さいたま市
市民参加 基本計画 交流シーン

1. はじめに
1-1. 研究の背景と目的

現在、全国的に公共施設の老朽化が進んでおり、今後更新の時期を迎える。公共施設をそのまま更新することは、自治体の財政面から不可能であるため、公共施設を再編し、複合化することが見込まれている。公共施設の再編・複合化は、利用者である市民に対して施設の利便性の低下を招く恐れがある。一方で市民参加による施設複合化検討は交流促進や、コミュニティ強化が期待できるため、市民合意形成手法を開発することが必要とされている。そこで本研究では、さいたま市与野本町小学校（以下：与野本町小）を中心とする公共施設複合化検討ワークショップ（以下：WS）を事例として、WS の効果について明らかにする。

1-2. 研究の方法

2015 年度に行った WS を対象として、市民からの意見について分析を行う。まず WS プログラムと基本計画案の決定プロセスを提示し、次に基本計画案に関する意見について分析し、更に交流・利活用及び運営への市民参加に関する意見について分析を行う。

1-3. さいたま市公共施設マネジメントの取り組み

さいたま市は「ハコモノ三原則・インフラ三原則」に基づき、公共施設マネジメントを定めた。

2010 年度に全体方針やマクロ把握を行い、施設の実態把握も行い、白書の作成や公共施設マネジメントの方針、公共施設マネジメント計画を策定した。2012 年度からは、アクションプランの策定が始まり、並行してモデルケースでの検討が行われている。

2. 与野本町小複合化検討の経緯



図 1 与野本町小学校及び周辺地区

2-1. 与野本町小及び周辺地区 (図 1)

さいたま市中央区は旧与野市であり、2001 年の合併によりさいたま市となった。そのため与野本町駅周辺には、与野本町小を含む多くの公共施設が集中している。

2-2. 2014 年度までの検討

2013 年度から 2014 年度にかけて与野本町小をはじめ公共施設複合化を検討する WS、意見交換会が行われた^{注1)}。先進事例の見学と複合化対象候補施設の見学やデザインゲーム^{注2)}による北校舎と東校舎の機能配置案の検討が行われその結果を踏まえて最終的に 2 案にまとめられた。

3. 2015 年度の検討 WS (図 2)

2015 年度の WS では模型の展示と同時に CCD カメラ及び交流シーンカードを使用するデザインゲームにより、基本計画最終案がまとめられた。

3-1. 第 1 回 WS のプログラム

第 1 回 WS では、A・B 案の平面図及び計画模型を用いて、平面計画の説明と、それに対する意見交換を行った。また、A・B 案平面図及び模型と施設連携・安全対策・個別課題検討カードを用いて、基本計画案を説明した。

3-2. 第 2 回 WS のプログラム

日付	タイトル	テーマ (所要時間)	WSの流れ	ツール	内容
2015年9月26日	第1回WS	はじめに (10分)	WS開始		小学校と周辺公共施設の複合化検討のこれまでの経緯、WSプログラムを説明する。
		基本計画案説明と質疑応答 (50分)	基本計画案説明 質疑応答 基本計画による意見交換	施設連携・安全対策・個別課題カード 基本計画A・B案平面図 基本計画A・B案模型 基本計画A・B案模型	施設の平面計画に関して、意見交換を行なう。また、基本計画の考え方に対する意見と、それらを反映した結果を説明する。
		基本計画案に関する意見交換 (50分)	所管課職員を含めた施設運営案の意見交換	*CCDカメラ 基本計画A・B案模型	施設所管課の職員を含めて、複合施設の運営・安全対策・北側の景観について、意見交換を展開する。 (所管課職員：小学校、学校施設課、健康教育部課、植物館、青少年教育課、子育て支援政策課、コミュニティ推進課)
		まとめ (10分)	WSまとめ	*アンケート調査 基本計画A・B案投票	
2015年11月12日	第2回WS	はじめに (10分)	WS開始		小学校と周辺公共施設の複合化検討のこれまでの経緯、WSプログラムを説明
		基本計画最終案の説明と質疑応答 (50分)	基本計画最終案確認・質疑応答 最終案に関する意見交換	*最終案計画模型 *CCDカメラ 基本計画最終案模型	第1回WSでの2案に対する意見を、どのように最終案の平面計画に反映しているのかを説明。また、意見交換を行なう。
		交流イメージの確認と運営への市民参加に関する意見交換 (50分)	利活用・運営に関する意見交換	*CCDカメラ *交流シーンカード	交流シーンカードを用いて、各施設の利用者と管理者を具体的にイメージしながら意見交換を行う。
		まとめ (10分)	WSまとめ		

図 2 2015 年度 WS のプログラム

第2回 WS では、まず、第1回で提示された2案に対する意見を反映した最終案計画模型と現況模型を使用し、意見交換を行った。次に、CCD カメラと芝浦工業大学の学生がまとめた交流シーンカードを用いて、各施設の利用者と管理者を具体的にイメージしながら意見交換をした。

3-3. 基本計画案策定のプロセス

2014年度 WS において作成された3案より、事務局による検討・調整を経て、基本計画 A・B の2案が作成され、第1回 WS で提示された。A 案は、文化財資料室への動線を確保するため、地下1階に貫通通路、北側にエントランスを設けている。また、給食室が2層に分割されている。B 案は、入口が1か所であり動線が単純である。

意見交換やアンケートの結果を踏まえ、事務局は基本計画最終案を作成した。第2回 WS にて提示された最終案に対する意見交換を通じ、基本計画案がまとめられた。

4. 市民からの意見に関する分析

4-1. 意見の分類と割合の変化(図3)

第1回 WS では、CCD カメラに使用により、平面計画、立面・景観・外部空間に関する意見が多かった。第2回 WS では、交流シーンカードにより施設の利用に対する意見交換を行ったため、交流・利活用、運営に関する意見が多かった。

4-2. 基本計画案に関する意見

①第1回 WS における意見

平面計画における A 案の北側のエントランスに対する意見、特に歩行者への配慮に対する意見が多かった。景観・外部空間に関する意見では、北側の景観や環境に関する意見が多かった。次に、中庭や北校舎とコミュニティセンター間など、敷地内の外部空間に関する意見も多かった。

②第2回 WS における意見

第2回 WS では、第1回 WS の A・B 案を統合させた1案が提示された。この案の特徴は、A 案のような貫通通路はなくなったが、北側のエントランスは残された点である。平面計画における意見は給食室の配置に関するものだけであった。

4-3. 交流・利活用及び運営に関する意見分析(図4)

①. 第1回 WS における意見

第1回 WS では、交流に関する全体的な意見や運営への市民参加に関する意見はほぼなかった。これは、CCD カメラの使用による視覚的に検討しながら意見交換を行ったため、交流、利活用及び運営への市民参加に関

する意見がでにくく、基本計画案に対する意見に偏ったためであると考えられる。

②. 第2回 WS における意見

第2回 WS では、交流・利活用に関する意見が全体の7割であった。これは、交流シーンカードを用いて、各施設の利用者や管理者を具体的にイメージしながら意見交換を行ったためであると考えられる。

運営への市民参加に関する意見は5つであった。

5. まとめ

・第1回 WS では、CCD カメラを使うことで、平面や景観・外部空間に関する意見が多くでた。

・第2回 WS では、交流シーンカードの使用による交流・利活用及び運営への市民参加に関する意見が多くでた。

・結果として、基本計画案を決定することができた。また、交流シーンを明確にすることができたことに加え、運営への市民参加に関する意見を引きだせた。

注釈

- 川島優太 他：公共施設再編のための市民合意形成手法に関する研究(1)、日本建築学会大会学術講演梗概集、都市計画 p187-188, 2015. 9 及び桂達也 他：公共施設再編のための市民合意形成手法に関する研究(2)、日本建築学会大会学術講演梗概集、都市計画 p189-190, 2015. 9
- 佐藤滋、志村秀明：まちづくりデザインゲーム、学芸出版社、2005. 3

WS 第1回	場所		交流・利活用及び運営への市民参加に関する意見	
	全体的な意見		▲コミュニティセンターとの連携を一緒に考えてほしい ▲企画力がほしい。コミュニティセンターと連携したい	
第2回WS	場所	交流シーンカード		交流・利活用及び運営への市民参加に関する意見
		交流イメージ		
	文化財資料室	利用者設定	企画展を立ち寄ってみる。と、地元の方に説明してもらえ、勉強になった	●子育て支援センターに文化財資料室の企画展のポスターをはってほしい ●日本でも注目されるような道徳が発掘されていることを、もっと多くの人に知ってもらいたい
		子育て支援センター利用者	放課後来た小学生は古地図にとても興味を持ってくれる。会話をしているが母親が迎えに来た	
		文化財資料室ボランティア	打ち合せのあと、いつもパトロールの時に顔を合わせている子供たちとまたまた会って、話をした	
		地域交流室利用自治会	児童クラブのおやつを食べ終わった後、友達と見学に行った。地元の方に説明してもらって、自分の住んでいるところの昔の家に興味を持ち、毎日遊びに行きたいと思った	
		放課後児童クラブ入室児童	共通	
	地下1階	共通	—	●文化財資料室は、地域の歴史にいろいろな人に触れてもらう工夫が必要 ●飲食物を自分で持ち込むには、地域サロンは良いと思う ●地域サロンは、駅前に色々な喫茶店があるから、そっちに行ってしまうのでは ▲文化財関係ボランティアには歴史をみんなに説明してほしい
		子育て支援センター利用者	知り合いのお母さんが休職していたので、近所の新しいお店の話をした	
		地域サロン	他の文化財資料室ボランティアのメンバーと新しい企画展の勉強会をする。十分に水分補給をし、ウォーキングの準備をしてから仲間と出発	
		共通	—	
		共通	—	
	1階	共通	—	●地域サロンがコアになるのでは ●地域サロンの壁を活用して、情報発信の場にはできないか ●文化財資料室の展示の打合せに地域サロンが使えるのでは ●地域サロンはあまり用途を決めずに、みんなの居場所かつ誰でも使える良い ●小学生が防災のために地形図を作成し、文化財資料室にいたら良いと思う ●昔あそびのイベントなど、高齢者と子どもが交流するイベントを地域交流室でできるのでは
		子育て支援センター利用者	立ち止まって、花壇のお手入れをする。近所の方にガーデニングのアドバイスをもらう	
		コミュニティセンター利用者	コモンで買ったコーヒを飲む。また時間が余っていたので、文化財資料室へ向かう	
		地域の児童	小学校の児童	
		共通	—	
	中庭	共通	—	▲放課後、児童クラブに迎えに来たお母さんとコミュニティセンター利用者が挨拶をすることによって何か生まれるのでは ▲地域のバトロールをやっている、中学生になっても挨拶してくれる。そういった良い出会いがうまれると思う ●文化財を真正、適切な場所で展示して欲しい ●定年退職した人の情報をまとめれば、ボランティアの選定に活かせる ●運営を市に任せるのではなく、市民も参加できれば良い ●運営はきつりと決まらず、話し合いながら徐々にできしていけば良い
		放課後児童クラブ入室児童	放課後友達と昨日のテレビ番組の話をしながら中庭へ。中庭で会った先生に挨拶をし、放課後児童クラブへ向かう	
		共通	—	
		共通	—	
		共通	—	
	全体的な意見		—	
	全体的な意見		—	
	全体的な意見		—	
全体的な意見		—		
全体的な意見		—		

只図 ▲ 交流(第1回): 2ヶ所 第2回(第2): 6ヶ所 ● 別活用(10ヶ) ■ 運営への市民参加(5ヶ)

凡例：▲交流(第1回WS: 2つ 第2回WS: 6つ) ●利活用(10つ) ■運営への市民参加(5つ)

図4 交流・利活用及び運営への市民参加に関する意見

WS 1回	「平面計画」に関する意見		「景観・外部空間」に関する意見	
	8		8	
第2回 WS	給食室を内側に、文化財資料室を道路側に配置できないのか		—	
	1		0	

図3 基本計画案に関する意見及び意見の分類と割合の変化

*芝浦工業大学大学院理工学研究科建設工学専攻 修士課程

**芝浦工業大学工学部建築学科 教授・博士(工学)

*Graduate school, Shibaura Institute of Technology

**Prof. Depart. of Architecture, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.